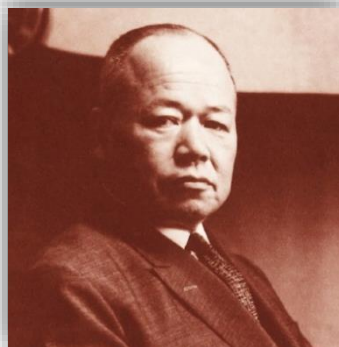


My 堺観光スポット 知って得する堺の偉人 協会ニュース別冊





牛頭天王坐像



も く じ

| (表 題) | ページ | (既報ニュース号) |
|-------------------------------|-----|-----------------------|
| ～はじめに～ | 1 | |
| 知って得する堺の偉人その1 阪田三吉 | 2 | R3(2021)年8月号(通算291号) |
| 知って得する堺の偉人その2 鳳秀太郎 | 2 | R3(2021)年9月号(通算292号) |
| 知って得する堺の偉人その3 中野正一 | 3 | R3(2021)年10月号(通算293号) |
| 知って得する堺の偉人その4 別府やそじ | 3 | R3(2021)年11月号(通算294号) |
| 知って得する堺の偉人その5 筒井庄右衛門 | 4 | R3(2021)年12月号(通算295号) |
| 知って得する堺の偉人その6 土井君雄 | 4 | R4(2022)年1月号(通算296号) |
| 知って得する堺の偉人その7 河盛安之介 | 5 | R4(2022)年2月号(通算297号) |
| 知って得する堺の偉人その8 森浩一 | 5 | R4(2022)年3月号(通算298号) |
| 知って得する堺の偉人その9 龍興山(一人) | 6 | R4(2022)年4月号(通算299号) |
| 知って得する堺の偉人その10 久野節 | 6 | R4(2022)年5月号(通算300号) |
| 知って得する堺の偉人その11 阪本順治 | 7 | R4(2022)年6月号(通算301号) |
| 知って得する堺の偉人その12 伏屋素狄 | 7 | R4(2022)年7月号(通算302号) |
| 知って得する堺の偉人番外編 甲子園のスターたち | 8 | R4(2022)年8月号(通算303号) |
| 知って得する堺の偉人その13 浅香久平 | 8 | R4(2022)年9月号(通算304号) |
| 知って得する堺の偉人その14 吉田隆子 | 9 | R4(2022)年10月号(通算305号) |
| 知って得する堺の偉人その15 黒田屋八兵衛 | 9 | R4(2022)年11月号(通算306号) |
| 知って得する堺の偉人その16 孤峯覚明 | 10 | R4(2022)年12月号(通算307号) |
| 知って得する堺の偉人その17 小出秀政 | 10 | R5(2023)年1月号(通算308号) |
| 知って得する堺の偉人その18 湯浅作兵衛 | 11 | R5(2023)年3月号(通算310号) |
| 知って得する堺の偉人その19 山崎豊子 | 11 | R5(2023)年4月号(通算311号) |
| My堺観光スポット series 1 黄金塚 | 12 | R4(2022)年1月号(通算296号) |
| My堺観光スポット series 2 髪蒼水神 | 12 | R4(2022)年2月号(通算297号) |
| My堺観光スポット series 3 法雲禅寺 | 13 | R4(2022)年3月号(通算298号) |
| My堺観光スポット series 4 日置荘と萩原天神 | 13 | R4(2022)年4月号(通算299号) |
| My堺観光スポット series 5 万葉歌碑 | 14 | R4(2022)年5月号(通算300号) |
| My堺観光スポット series 6 川のない橋 | 14 | R4(2022)年6月号(通算301号) |
| My堺観光スポット series 7 美造 Re パーク | 15 | R4(2022)年7月号(通算302号) |
| My堺観光スポット series 8 首切地蔵尊 | 15 | R4(2022)年8月号(通算303号) |
| My堺観光スポット series 9 万代寺 | 16 | R4(2022)年9月号(通算304号) |
| My堺観光スポット series 10 中仙寺牛頭天王座像 | 16 | R4(2022)年10月号(通算305号) |
| My堺観光スポット series 11 甲斐町公園 | 17 | R4(2022)年11月号(通算306号) |
| My堺観光スポット series 12 チシマザクラ | 17 | R5(2023)年1月号(通算308号) |
| My堺観光スポット series 13 長曾根陣屋跡 | 18 | R5(2023)年2月号(通算309号) |
| My堺観光スポット series 14 踞尾八幡神社 | 18 | R5(2023)年3月号(通算310号) |
| My堺観光スポット series 15 南区の光明池 | 19 | R5(2023)年4月号(通算311号) |
| ～あとがき～ | 19 | |

～はじめに～ 「二つのシリーズができるまで」 (広報部会実況中継)

時は2021年春、人類は過去経験のないパンデミックに直面していた。これは、日本政府から「緊急事態宣言」と「行動自粛要請」が発表された時の、緊迫した広報部会的一幕である。

議長：それでは〇月の協会ニュースですが、、、何かいい候補はありませんか？

S氏：各部連絡はほとんどありません。活動は全くしてませんし、実績報告もありません。催事中止の連絡ばかりです。新人研修も延期になってます。

議長：オリンピック特集もオリンピックが延期になりましたので、ペンディングにします。

全員：(シーン・・・)

議長：どこかの同期会はなかったのでしょうか？

W氏：ステイ・ホームで活動自粛の中ですよ、、、勿論ありません。

全員：(シーン・・・)

K氏：桜の話はどうですか？

議長：先月も書きました。それにもう桜は散ってます。

W氏：提案ですが、何かテーマを決めて、会員に順番に書いてもらうのはどうでしょうか？

堺に縁のある「場所」とか、堺にゆかりのある「人」とかを書いてもらうのは、、、

議長：それなら、以前から話していた「多くの会員に書いてもらいたい」「会員参加型のニュース」にぴったりだし、会議で人選をすれば話も早い！ よし！ それで行こう！ みなさんいかがですか？

全員：賛成！！

議長：最初の投稿は我々広報部のメンバーが書きましょう！！ 「場所」は以前話していた「堺の七不思議」の中から書いてください。Mさんよろしくお願いします。

M氏：ということは、わしが7か月連続書くということですか、、、

全員：ちがう！ ちがう！

議長：堺に「ゆかりのある人」の方は、最初は24期の川上由(ゆかり)さんはどうでしょうか？

全員：(冷やかなシーン・・・)(完全に滑る・・・)

議長：冗談、冗談、、、「人」の方はSさんお願いします。

S氏：了解です！！

「実は、このような流れで、二つのシリーズがスタートしました。3年間たくさんの会員の皆様に積極的に執筆いただきました。本当にありがとうございました。」

(広報部一同)

* 「知って得する堺の偉人」千利休や与謝野晶子のように超有名人ではないが、堺出身や堺にゆかりのある人の紹介。

* 「My 堺観光スポット」定点やツアーガイドで案内をしている場所ではないが、知る人ぞ知ることな、自分のお気に入りの場所や推薦したいところの紹介。

《知って得する堺の偉人 その1》

王将 阪田三吉

フランク永井の名曲「大阪ぐらし」[〽] 阪田三吉

端歩もついた 銀が泣いてる 勝負師気質[〽]

この阪田三吉、わが堺出身である。

しかし、村田英雄のこれも名曲の阪田を歌った「王将」では、[〽]うまれ難波の 八百八橋・・・[〽]となっている。歌詞のことであるからなんと言っても良いのだが、これでは阪田が堺の出身であることが分からなくなる。なんてことしてくれる・・・！

阪田は反骨の棋士・天才棋士・勝負師などと冠される。まさに自治都市堺にふさわしい。貧しい境遇ながら、縁台将棋と賭け将棋で頭角を現したとのこと。

阪田三吉 年譜(顕彰碑石板記事)

- 1870 (明治 3) 年 和泉国大鳥郡袖松村 (現堺区協和町) に生誕
- 1891 (明治 24) 年 22 歳 堺大浜の料亭「一力楼」で関根金次郎四段と初手合
- 1913 (大正 2) 年 44 歳 東京築地倶楽部にて関根九段と記念対局「銀が泣いてる」の一局
- 1925 (大正 14) 年 56 歳 「関西名人」を宣言
- 1946 (昭和 21) 年 77 歳 大阪東住吉の自宅で没す
- 1955 (昭和 30) 年 日本将棋連盟より名人位・王将位を追贈さる

R3(2021)年 8 月号 (通算 291 号) 掲載

【住谷 多喜男】



生家跡近くの阪田三吉顕彰碑



顕彰碑の阪田のレリーフ

《知って得する堺の偉人 その2》

与謝野晶子の長兄 鳳秀太郎

R3(2021)年 9 月号 (通算 292 号) 掲載

【柴田 友宏】



皆様ご存知の与謝野晶子の家族や親せきで有名人として、お孫さんでは元国会議員で数々の大臣を歴任された与謝野馨さんをご存知の方も多と思います。しかし、実家の鳳家でも晶子さんの長兄である鳳秀太郎は電気工学を勉強された方ならだれでも知っている定理を作られた、日本人の電気工学の学者として一番有名な方です。この定理は電気理論の中で勉強する基礎的な定理です。その定理の名前は「鳳-テブナンの定理」と呼ばれています。

その内容を簡単に大雑把に表すと「複雑な電気回路は指定の位置から見て単一の内部抵抗のある電圧源に置き換えることができる」という内容です。

そして、経歴も素晴らしく東京帝国大学工学部教授、電気学会第八代会長をされています。また、そのお子さんである鳳誠三郎 (三男：晶子さんの甥) も東京大学教授、電気学会 60 代会長をされ、またそのお子さん (秀太郎さんの孫) である鳳紘一郎さんも東京大学教授 (集積回路：電子デバイス) と活躍されました。与謝野家は与謝野馨さんのお父様が大使として海外で活躍されましたが、鳳家の家系も社会に大きく貢献していました。

ちなみに私も晶子さんの実家と同じ町名の甲斐町西1丁で暮らしていたこともありました。

《知って得する堺の偉人 その3》

R3(2021)年10月号(通算293号)掲載

都こんぶの創業者中野正一

【和田 千香】



「都こんぶ」を食べたことはありますか。堺市堺区大仙中町に本社がある中野物産が製造・販売する商品です。都こんぶを生み出した中野正一は1912年(明治45)に京都で生まれ、尋常小学校を卒業後、堺の昆布問屋へ丁稚奉公に入りました。日々の厳しい生活の中で倉庫の中にある売り物にならない昆布の切れ端をおやつ代わりにして食べながら「こんぶに味付けしたらお菓子になるんちゃうやろか?もしかしたら売れるんちゃうやろか?」と考えていたそうです。



1931年(昭和6)に19歳で独立し、中野商店を創業しました。かねてから温めていたアイデアの昆布を原料としたお菓子を開発。それは今の『都こんぶ』の原型で黒蜜の入った酢漬けの昆布で、そしてこの昆布を原料にしたお菓子でした。望郷京都への思いを込めて『都こんぶ』と名づけたのだそうです。中野氏の発想で、子供達の娯楽の中心であった紙芝居屋を始め、大人向けには映画館、演芸場さらに鉄道弘済会(現在のキオスク)での販売が加わり国鉄の駅の売店にも売り込みを行ったことで、全国的に知られていったのだそうです。

親子三代、遠足等で食べた方も多いのではないでしょうか。いつ食べてもどこか懐かしい味ですね。

参考文献 「都こんぶ」のHPより <http://www.nakanobussan.co.jp/about/history.html>

《知って得する堺の偉人 その4》

R3(2021)年11月号(通算294号)掲載

「はとぶえ」創始者 別所やそじ

【土山 裕美】

堺市内で小学生時代を過ごした方、あるいはご自身のお子様を堺市立小学校に通わせていた方ならよくご存じであろう「はとぶえ」。詩・図画・綴方・習字が掲載されている、全国で唯一の児童文化月刊誌です。

生みの親である別所やそじ(八十次)氏は戦地から復員後、湊小学校(現在は湊西小学校と共に統合されて新湊小学校となった)に赴任。世の中は戦争の爪痕が残る貧しい時代でした。しかし子ども達の心だけは明るく豊かであってほしいとの願いから、別所先生は担当クラスの児童に詩を書くことをすすめます。「多くの作品を読むことは書くために必要であり、書くことにより読む力が養われるもの」と考え、やがて輪が広がり他校の有志の先生方と協力して昭和26年、「児童詩集」を創刊。詩集にふさわしい名をつけようと校区内に住んでいた詩人安西冬衛が「はとぶえ」と命名したそうです。同年の湊小学校女子児童の詩「停電の夜 あんなところに トタンのあな 星のようだ」は後に国語教科書に載り、当時学生だった作家藤本義一もこの詩に感銘を受け、ラジオドラマの脚本を書きNHK大阪から放送され、舞台劇でも上演されました。



土山さんの息子さんの作品が掲載されています

最新号を取り寄せ読んでみました。マスクをした友だちのスケッチ、給食の時間はおしゃべりしたい、という詩などはまさに今の時代ならではのもの!数々の作品からは、みずみずしい感性が溢れ、さび付きかけている我が脳に喝を入れてくれた一冊となりました。かつて同誌に連載されていた「むかしの堺」やそれを元に作られた「堺かるた」も好評でした。関連の出版物は市立中央図書館に保存されており、郷土の宝としてこれからも皆に愛され続けるでしょう。今年は「はとぶえ」創刊七十周年を迎えます。(2021年時点です。)

(参考文献 「湊乃百年」市立湊小学校創立百周年記念誌

「はとぶえ」50周年記念)

《知って得する堺の偉人 その5》

筒井庄右衛門

R3(2021)年12月号(通算295号)掲載

【木村 義穂】

妙國寺開山・日珧上人の令妹が嫁いだ筒井庄右衛門の一面です。筒井家は戦国大名筒井順慶の後裔と伝えられている家です。筒井庄右衛門は信長の代に浪人して商人となり名字を木地屋と名乗り堺に住みます。享保六年代官に提出された由緒書によれば、本能寺の変の時には堺見物に来ていた徳川家康の「伊賀越え」に伊勢白子まで随行し、その功により馬・鎧・帯刀を許されたとされています。

一方、庄右衛門は土木にも熱心で人々の生活を豊かにするため、代官の高西夕雲との話合いで新田を開拓します。湘賀池付近(百舌鳥梅北町にあった)、JR百舌鳥駅、大仙公園付近を通り甲斐町付近までを開発しました。当初は万代新田と称したがその後代官の名にちなんで「夕雲開(せきうんびらき)」となりました。(百舌鳥駅付近に夕雲町が残る)この事業のために「木地屋銀札」といって私札を発行しました。今でも、役目を終え木地屋に回収された角が切つてあるお札が残っているそうです。



筒井家の大楠

新田開発ではこの他に狭山池周辺の大野新田も開発しています。筒井家は天然記念物の楠、御廟表塚古墳で皆様よくご存知のところでは。

参考文献 『フォーラム堺学第4集』「第2回 筒井家と堺」 筒井貞

《知って得する堺の偉人 その6》

カメラのドイ 土井君雄

R4(2022)年1月号(通算296号)掲載

【北野 しどり】



ミュシャの息子さんイジー・ムハ氏
と土居君雄さん

土井君雄(1926年-1990年)日本の実業家。ドイ(カメラのドイ)創業者。広島県広島市出身。

妻の郷里・福岡県で土井商店として独立した時は、問屋から製品を仕入れ、小売店に納入する二次卸だったが、社名を「ドイ」と変更し小売部門に進出。流通経路がメーカー直結の問屋であった時代、顧客獲得に苦戦するが、写真館やDPE店、土産物屋へのダイレクトメール作戦、ラジオCM起用が功をなし、東京に進出。ピーク時には約130店舗を展開し、

カメラ専門のチェーン店として日本で第3位となり、売上346億円に達した。もったいないが口ぐせで付き合いなどにはお金を使わず、創業者として得た富で好きな洋画と自動車を収集。特にアルフォンス・ミュシャとBMWの世界的なコレクターであった。1989年、チェコ文化功労最高勲章が授与されている。90年に急逝した後、夫人の満里恵さんから新婚時代を堺の浜寺で過ごしたよい思い出の地である堺市にどちらも寄贈され、現在ミュシャ作品は「ドイ・コレクション」として堺アルフォンス・ミュシャ館で公開されている。また約50台の「ドイBMWコレクション」も財団法人堺文化振興財団の手によって保存されている。名前をもじり「ドケチ」ともいわれたが、素晴らしいコレクションが残り、お金は使い方が大事ということを伝えてくれた人物だ。

《知って得する堺の偉人 その7》

R4(2022)年2月号(通算297号)掲載

河盛安之介

【生島 英造】



20世紀以降、堺市に対して貢献度の高い人は誰?と絞って調べていきますと河盛安之介市長の名が出てきました。大阪生まれの私にとっては、今までほとんど知らなかったわけですが。

早速「むかしの堺」等を開くと、昭和8年4月より、戦前戦後併せて約30年、堺の市長として文字どおり堺市発展のため尽力され、「市長さんといえば河盛さん、河盛さんといえば市長さん」と市民から慕われ、昭和46年退任後は堺市名誉市民第一号に推され堺の父と仰がれました、とありました。

興味を引きましたのは、明治19年茨城県の名家に生まれ、明治44年現在の一橋大学を卒業後、堺の河盛家に養子として入られ、家業の醤油醸造業の経営にあたられ義父の又三郎氏がおられたにせよ、家業は発展、推されて堺興業信用組合の組合長、市議員、同議長に当選、昭和8年には市長(給料なしの名誉市長)。一旦、昭和21年に追放令により退職、家業を再建、昭和30年再び市長として16年、現在の堺市の基礎づくりをされたのですが、昔から大阪のような町人の町では養子が多く、堺でも“おこ大和”という言葉があるそうで、この当時「養子をもらうなら河盛のような養子をもらえ」と世間の羨望の的となっていたようです。

参考文献 「むかしの堺」「堺の歴史」「河盛安之介九十年の歩み」

《知って得する堺の偉人 その8》

R4(2022)年3月号(通算298号)掲載

森 浩一

【細谷 利晶】



森浩一氏をご存知ですか。堺、特に古墳とは切っても切り離せない人物です。

1928年生まれ、幼少期に堺に移住。堺中学(現 三国ヶ丘高校)から同志社大学へ。考古学が専門で同大学教授となり2013年死去。どこが偉人なのかを彼の人生を3つに分けてお話しします。

- ① 学生時代(1945年~1951年)戦後復興で破壊されていく大塚山古墳の調査が有名。堺市博物館には彼等が発掘した甲冑、鉄器が常設展示。
- ② 泉大津高校教諭時代(1951年~1965年)泉大津高校で地歴部を立上げ高校生と共に地域の発掘調査を行う。1955年いたすけ古墳保存活動の中心人物の一人。
- ③ 同志社大学職員時代(1966年~)仁徳天皇陵と呼ばれていた古墳を確認が無い事から地名を付けるべきとして「大山古墳」と提唱。

この様に今に繋がる様々な活動をされた方です。観ボラでお世話になるY学芸員は同志社大学在学中、森教授をご存知でした。

印象に残る言葉として「海外へ行ったら、ミュージアムのお宝よりも遺構や史跡を見ないといけない。ミュージアムのお宝は日本に出品されることはあっても、遺跡はそこでしか見ることができない」を挙げます。我々も胸に刻む言葉です。

参考文献 森浩一著「僕は考古学に鍛えられた」ちくま文庫・宮川 徒「よみがえる百舌鳥古墳」新泉社

《知って得する堺の偉人 その9》

R4(2022)年4月号(通算299号)掲載

堺出身の関取 龍興山一人 (りゅうこうざんかずと)

【佐伯 勇次】

1967年6月23日生 浜寺中学3年の時、周囲の猛反対を受けるが出羽の海部屋への入門を決意、卒業と共に初土俵を踏みました。四股名は南宗寺の山号でもあります。この当時、大阪場所の時には南宗寺が宿舎でした。当初は遅い相撲でしたが、1989年7月場所に十両昇進した頃には早くなり、腰の重さを生かしたがぶり寄りを覚え、その取り口から「琴風二世」と評されました。1990年1月場所で新入幕を果たし、終盤の4連勝で9勝6敗と勝ち越しました。

ところが場所後の2月2日朝稽古後、突然意識を失って倒れ同じ部屋の力士や親方によって救急車で病院に運ばれたものの、手当の甲斐もなく虚血性心不全によって急死してしまいました。享年22歳。本来ならば番付編成会議後に亡くなった力士は翌場所の番付から四股名が消され、その位置は空き番付となるはずでしたが、龍興山の場合は新入幕を果たした場所で勝ち越したことで、翌場所は自己最高位を更新する予定であったため「せめて番付だけでも故郷(3月場所は大阪で行われる)に錦を飾らせたい」という9代出羽の海親方や日本相撲協会の配慮で残されることになり、3月場所の新番付では自己最高位となる東前頭5枚目にその四股名が記載されました。身長185.5cm、体重160kg、将来を囑望されましたがあまりにも若い死でした。



関取 龍興山一人

《知って得する堺の偉人 その10》

R4(2022)年5月号(通算300号)掲載

三丘会館(現旧三丘会館)を設計した戦前を代表する建築家 久野 節 【福井 洋子】



明治末期から昭和前半にかけて、多くの名建築を設計した久野節(くのみさお)は、1882年(明治15年)2月、元岸和田藩士の長男として生まれた。堺市甲斐町東に住み、1900年に堺中学校1期生として卒業、1907年に東京大学建築学科を卒業している。その後千葉県技師を経て、鉄道省の初代建築課長に就いた。1924年8月からは1年間にわたって欧米に派遣され、ホテルや駅舎建築の視察も行った。多数の駅舎や鉄道工場の設計に携わり、難波駅併設の南海ビルディングや近鉄宇治山田駅の設計も手掛けている。

堺における業績としては、大阪府立三国丘高校に現存する1934年竣工の三丘会館(現在は旧三丘会館)の設計がある。「図書館機能を有した記念会館を」と、1932年9月に同窓会誌『三丘』での提唱が建設のきっかけとなり、昭和天皇陛下行幸を記念して建設機運が高まったようだ。1階は図書室、2階は同窓会用の部屋等に使われた。1975年に母校創立80周年記念事業として1階に資料室、120周年記念事業でも整備された。2本の円柱を持つ玄関ポーチ、大きな縦長窓を備えた階段室などに特色があり、「インターナショナルモダニズム建築の特色を示す」ものとして歴史的価値が認められ、2000年(平成12年)に府立学校として最初の登録有形文化財に認定された。

(参考資料 三丘120年誌)

《知って得する堺の偉人 その11》 映画監督・脚本家 阪本順治

R4(2022)年6月号(通算301号)掲載

【松本 潤子】



阪本順治監督は、1958年10月1日生まれ。大阪府立三国ヶ丘高等学校の卒業生です。堺市役所21階展望ロビーで、学校がまだロビーから見えていた頃から、私はガイドマニュアルに卒業生として掲載されていた土井隆雄さん、川淵三郎さん、藪内佐斗司さん以外に阪本監督もお客さまにはご紹介していました。

堺東の銀座通り商店街の仏壇屋「五重屋」のご息子というのを知る人ぞ知る話題でしょうか。(残念ながら数年前にお店は閉店しています)1989年『どついたるねん』で第32回ブルーリボン賞最優秀作品賞を受賞してデビュー。2000年の『顔』では第24回日本アカデミー賞最優秀監督賞、第25回報知映画賞作品賞、キネマ旬報ベストテン第1位など、主要映画賞を受賞。

高校の同窓会総会では、監督した『どついたるねん』で主演した赤井秀和さんや『顔』で主演した藤山直美さんらにまつわるエピソードを語られたとのこと。

その後も2012年東映創立60周年記念作品の吉永小百合主演の『北のカナリアたち』、2016年再び藤山直美主演の『団地』他多数の話題作品に関わられ、最新作は伊藤健太郎主演の『冬薔薇』が2022年6月公開予定です。監督と脚本に関わられる作品も多く、今後益々のご活躍が楽しみです。

《知って得する堺の偉人 その12》

R4(2022)年7月号(通算302号)掲載

日本実験生理学の開祖 伏屋素狄 (ふせや そてき)

【戒田 啓二】

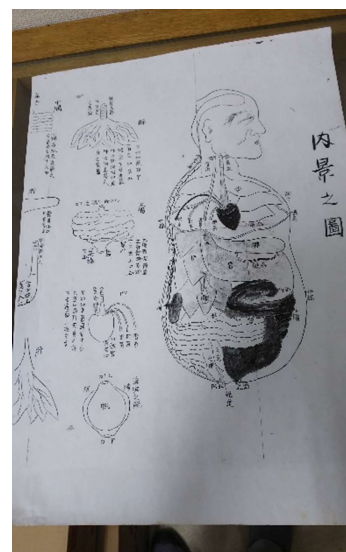
東区南海高野線萩原天神駅前に、萩原神社(萩原天神)があります。社伝によると960年(天徳3)に菅原道真公が祀られたとされています。その絵馬殿(宝物資料館)に伏屋素狄についての展示がされています。

伏屋素狄は、1747年(延享4)日置荘西村、吉村家の第6子として生まれ、14歳の折、伏屋家と養子縁組みし、分家を相続しています。素狄が医を志したのは、1766年(明和3)20歳の頃で、まず漢方医学法を学び、のち堺で開業しています。40歳を過ぎた頃、大阪阿波座、堀江に居を移し、杉田玄白訳「解体新書」等に触れ、西洋医学研鑽への決意を固めたようです。1800年(寛政12)葭島(よしじま)と呼ばれていた今木刑場で刑死体を譲り受けて解剖。動物実験なども繰り返して、腎臓が尿をこす器官ということを初めて明らかにしました。

素狄の業績は、男性・女性泌尿生殖器の機能と構造についての検証で、腎臓の尿生成に関する説は世界的なものであったと日本医師学会でも提唱されています。

なお、萩原神社絵馬殿は通常非公開、観覧には事前の連絡が必要です。

参考資料：太田将勝「日本美術教育史研究叙説」、日置荘町史、毎日新聞2010年9月9日記事



《知って得する堺の偉人(番外編)》 堺出身の甲子園のスターたち

R4(2022)年8月号(通算303号)掲載

【タイガースファン】

〈以下は2022年の時点です。〉

まもなく夏の全国高校野球選手権大会が始まります。コロナ禍の影響で一昨年は中止、昨年は無観客での開催となり、今年は久しぶりに熱い甲子園が戻ってきました。その甲子園のスターを高校時代からプロになっても続けている選手を二人紹介します。

北條史也は堺市立美木多中学校から青森の名門、光星学院高校に進み、2012年夏には準優勝に輝きました。

翌年2013年は悲願の優勝をめざして甲子園に帰ってくるのです。彼の夢をはばんだのが堺市立宮山台中学出身の藤浪晋太郎です。藤浪と森友哉の率いる大阪桐蔭高校に決勝で敗れた北條は2年連続の準優勝で終わりました。この同期の二人が今度は阪神タイガースでチームメイトとなり、甲子園の星として再度輝くのです。北條は2016年には鳥谷敬の後釜としてショートのリギュラーを手中に収めたかに思えました。一方藤浪は2013年から3年連続10勝以上をあげ、2017年のWBC日本代表にも選ばれ、虎のエースに上り詰めました。しかしここ数年二人の成績が上がらないのは皆さんもご存知と思います。夏の高校野球が帰ってきた今年こそ、北條と藤浪に高校時代の輝きを取り戻してほしいものです。



〈藤浪は現在MLBのボルチモア・オリオールズで活躍中です。高校時代藤浪の女房役だったオリックスバッファローズ森友哉も堺市立東百舌鳥中学卒業です。〉

《知って得する堺の偉人 その13》 象印スコップ 浅香久平 (あさかきゅうへい)

R4(2022)年9月号(通算304号)掲載

【吉田 カ】

南海本線七道駅から三好ゆかりの海船政所に向かう途中に、菅原神社御旅所の横を通ります。この辺一帯にかつてスコップの製造工場がありました。



6代目 浅香久平

スコップといえば「もののはじまりなんでも堺」の一つ。堺発祥の製品です。江戸前期の寛文年間に創業した打刃物問屋「宝長久(ほうちょうきゅう)」が、明治になりスコップ生産に乗り出します。1893年(明治26年)、6代目浅香久平は、鉄道建設や鉱山開発を見越してプロ仕様のショベル・スコップの生産に成功します。久平は発売後も研究を積み重ね、「KS磁石鋼」で世界に知られた東北帝国大教授・本多光太郎博士に指導のもと、独特の熱処理により、折れず曲がらずの強靱な最高品質の製品を完成させます。現在も浅香工業(株)(本社=堺区海山町)はスコップ業界のリーディングカンパニーです。

ところで、スコップとショベルの違い、お分りですか。チコちゃんの番組で取り上げられていましたね。関西と関東で逆転するようですが、浅香さんの見解は「掘るものがショベル、すくうものがスコップ」だそうです。お客さんとこんな話題で盛り上がるかも…。

参考文献 浅香工業 HP、産学官ジャーナル 2020年12月産学官連携が生む老舗企業の社会貢献

《知って得する堺の偉人 その14》

作曲家・吉田隆子 (1910年~56年)

R4(2022)年10月号(通算305号)掲載

未完のオペラ「君死にたもうことなかれ」

【富永 啓子】

堺の街を訪れて、与謝野晶子の足跡をたどりながら、歌曲を創作した作曲家、吉田隆子。歌曲「君死にたもうことなかれ」は、1949年の4月に作曲され、同年5月29日に与謝野晶子の偉業を偲んで催された第1回「晶子祭」で初演された。この歌曲の作曲を思い立ったのは、明治(日露戦争中)に作られた反戦詩が、その後ずっと日本の軍国主義のために閉じ込められてきながらも、敗戦の焦土からよみがえる事が出来た終戦後間もなくのことだったと吉田隆子自身が語っている。そしてオペラ「君死にたもうことなかれ」の台本執筆とその作曲に取り組む。3幕7場のオペラは、晶子23歳から27歳までの東京、堺、浜寺が舞台。高師浜の歌会、堺甲斐町の駿河屋の場面がある。「堺の地名、千利休や和菓子の小島屋も出てくる。台本執筆のために、与謝野家の承諾や協力を得、堺言葉を習うなどしたそう。アリアや二重唱や合唱など曲が付くのがオペラだが、病に倒れて作曲は少ししか出来ないまま46歳の若さで亡くなった。オペラのクライマックスは、「君死にたもうことなかれ」が誕生する瞬間で、劇中に吉田隆子が入り込んでいるようだ。作曲まで完成できなかったのは無念だったにちがいない。



参考文献 吉田隆子 『君死にたもうことなかれ』 新宿書房
吉田隆子 『現代日本の作曲家2』 音楽の世界社

《知って得する堺の偉人 その15》

黒田屋八兵衛とすずめ踊り

R4(2022)年11月号(通算306号)掲載

【谷口 早苗】

慶長5年、伊達政宗が“仙台城”を築城する時、堺の茶人今井宗薫が徳川家康の命を受け、大坂城築城に関わった泉州堺の石工黒田屋八兵衛他を仙台へ派遣しました。

慶長6年1月に着工し、石垣は「野面積み」で約1年4カ月かけて完成しました。その祝いの席で石工達が即興で踊ったのが「すずめ踊り」の始まりと伝えられています。もともとは「はねっこ踊り」と呼ばれて、仙台市石切町(現在、仙台市八幡町)に住む石工によって踊り継がれ、瀬田谷不動尊や伊達家の守護として崇められていた国宝大崎八幡宮に奉納されていました。

戦争などで一旦途絶えましたが、「黒田家」17代目が復活させ、地元の中学校の体育授業の一環として取り組まれ、30数年前に復活した「仙台・青葉まつり」で披露され現在に至っています。

私が所属している祭連(市校区 市扇雀)の仲間が仙台に行った時、すずめ踊りは堺の石工が踊った踊りだと聞かされ堺へ持ち帰りました。そして「堺まつり」で仙台城築城に関わり堺へ帰ることが出来なかった石工達へ思いを馳せて披露しています。堺市中之町西1丁(旧 石屋町)の中之町公園に「すずめ踊りゆかりの地伝説堺の石工とすずめ踊り」の案内板があります。

今もその石垣は残っており、黒田屋八兵衛さんの御子孫は仙台で石材店を営んでおられるそうです。



《知って得する堺の偉人 その16》

R4(2022)年12月号(通算307号)掲載

孤峯覚明の「照顧脚下」

【西川 史朗】

1347年頃、現在の浜寺公園のあたりに孤峯覚明(こほうかくみょう)というお坊様が「大雄寺」という大きなお寺を建立されました。世は南北朝時代、大雄寺は南朝方の拠点でもあり、南朝方の吉野の「日雄寺」を「山の寺」と呼び、海辺にある大雄寺を当時の人々は「浜の寺」と呼んでいました。さてこの孤峯覚明師、後村上天皇から「三光国師」の号を賜ると云う程のとてもえらい臨濟宗のお坊様でした。

ある時、弟子が「禅の極意とは？」と尋ねたところ国師は「照顧脚下(しょうこきゃっか)」と只一言お答えになられたとか。この言葉「脚下照顧(きょうこきゃっかしょうこ)」とも言われますが、禅寺の玄関先に掲げられていることが良く有り、ご存じの方も多いと思います。照顧とは照らし顧みる・よく見るということ、脚下は足元のこと。照顧脚下は足元をしっかりと見なさいということですが、単に自分の足元をしっかりと見て転ばないようにしましょうという様な簡単なことでなく「自分自身をしっかりと見なさい」という蘊蓄(うんちく)に富んだ言葉だという事は東福寺派元管長福島慶道師からの受け売りです。



三光国師の名前は今でも浜寺諏訪ノ森近辺で石津川の支流の「三光川」、その川に架かっている「三光橋」や近隣の自治会館が「諏訪ノ森三光会館」、今は諏訪ノ森西4丁に碑だけが残っている「三光松」に面影を偲ばせます。

《知って得する堺の偉人 その17》

R5(2023)年1月号(通算308号)掲載

数奇な運命 小出秀政(初代陶器藩主の父)

【丸山 英看】

自治都市堺が隆盛し、信長の勢力が伸張した16世紀後半、泉州地域では根来衆との衝突が長期化、信長勢は岸和田城を拠点とし根来寺を攻撃、泉州と紀北部を平定。信長の意向を受け継いだ秀吉は岸和田城主に小出秀政を据え、泉州の守りを堅固に。秀吉自身が大阪城を拠点に全国平定のため、近接する泉州の防衛を恩顧の家臣に託したのです。小出秀政は秀吉と同郷(尾張国中村)で、かつ秀吉の母・大政所の妹・栄松院を正妻とする家臣。大阪城造営に伴い、岸和田城も本格的に近代城郭に改築、その頃2万石が加増され陶器7カ村等が領地に組入。関ヶ原の戦いでは秀政と長男・吉政は西軍に、次男・秀家は東軍に。本来ならば戦後に皆が処罰されるどころ、秀家が戦功を挙げ戦後処理にも活躍、小出氏は所領を安堵される。親兄弟で東西に分かれた真田氏と同じく西に参加した父・兄は何とか救命されるが、幽閉生活に。真田氏と比べ小出氏は全て許されたのです。関ヶ原後、秀家は父に代わり岸和田城主になり37才で没しますが、家康はその死を惜しんで改易せず、三男、三尹を養子とし家督相続させます。その翌年、秀政が死ぬと吉政を岸和田城主に。うち1万石を割かせ秀家の後継三尹に分け、陶器藩を立藩させたが、4代目が無嗣子で藩廃絶。しかし9年後5千石の旗本として再興。その支配は明治3年の廃藩置県に至るまで9代続いたのです。



*写真は小出氏が再興した高倉寺(境内に歴代藩主の小出家墓地がある)

《知って得する堺の偉人 その18》

R5(2023)年3月号(通算310号)掲載

里帰りした銀座と湯浅作兵衛

【野澤 昭一】

湯浅作兵衛は、堺で南鐐座という同業者5名からなる両替組織を作り、諸国から灰吹銀(粗製銀)を買い集め、これに銅(約20%)を加えて銀貨や銀細工を作り商売をしていた。

徳川家康が伏見に銀貨製造所(銀座)を設け、慶長3年湯浅作兵衛を元締めとした。大黒屋の屋号を姓にする事を許され、以後大黒作兵衛常是と改めた。慶長11年家康が駿府に移った時、此処にも銀座を設けて大黒屋が製造を任された。さらに慶長17年、江戸京橋の南、現在の銀座に銀製造所を移した。その当時の町名は新両替町。銀座という俗称はそのまま残り、明治2年公式の町名になり、日本を代表する繁華街として隆盛を極めた。

昭和20年の敗戦で焦土化した日本を再建すべく、復興事業の一環として銀座の名にあやかり各地に〇〇銀座が誕生した。堺でもいち早く堺東銀座通り商店街を昭和24年にオープンする事になったが、この事業に携わる人々が東京銀座のルーツが堺の湯浅作兵衛であることを知り、堺に銀座が帰ってくると、喜々として「里帰りの銀座」と呼んだ。

大黒作兵衛常是は、寛永3年3月5日に没した。妙國寺過去帳に法号本性院常是日如とあり、墓は日暁聖人ゆかりの京都頂妙寺塔頭妙雲院にある。銀座の柳は、家康の招きで多くの堺衆が江戸銀座へ移り住んだが、その人達が故郷の堺を懐しみ柳を植えたのが由来である。

参考文献 大阪春秋第16号、堺市立中央図書館(市連20年の歩み)



《知って得する堺の偉人 その19》

R5(2023)年4月号(通算311号)掲載

山崎豊子(不死鳥と呼ばれた国民的作家)

【杉本 信子】

山崎豊子氏は大正13年、大阪船場の老舗昆布店「小倉屋山本」の5人兄弟の一人娘として育つ。正真正銘の“いとはん”であったが、容赦なく戦争が彼女の青春を奪う。動員され弾磨きの毎日、さぼって小説を読むが見つかり殴られる。(晩年の会見でも、私の青春を返して欲しいと嗚咽される)21歳、新米新聞記者時代、大阪大空襲で実家を失う。生活は一変。知人を頼り浜寺へ。34歳『花のれん』で直木賞を受賞。新聞社を辞し作家生活に入る。

一連の“大阪もの”の後、テーマを社会問題・戦争へと広げる。何年にも及ぶ綿密な取材・膨大な資料を読み込み、迫真の人間ドラマを作り上げる。69歳、「山崎豊子文化財団」を設立。胡耀邦総書記から中国取材の許可を得、中国戦争孤児を描く『大地の子』が刊行されるまで7年の歳月を要した。その時の取材から戦争孤児の子孫への支援を決意された。「私のような子供のない作家にとって、作品は子供です。その子供から得たものは、子供のために使うのが自然なことです」89歳、時には酷い疼痛に痛い痛いと大声で叫ぶが、なおも連載を執筆。戦争の不条理を伝えるのが生き残った自分の使命だと覚悟されていた。2013年(平成25年)9月29日、入院12日目、逝去される。「山崎豊子文化財団」は彼女の遺志を継ぎ今も活動を続ける。



参考文献 野上孝子 『山崎豊子先生の素顔』 文藝春秋

《My 堺観光スポット series1》

R4(2022)年1月号(通算296号)掲載

天野街道沿いの「黄金塚(こがねづか)」

【榎 静一】

堺市南区の天野街道は、西高野街道から堺市岩室(今熊)で分岐し「女人高野」と言われる天野山金剛寺までの信仰の道だ。泉北NTと狭山NTの間を南北に縦走する自然豊かな尾根道でウォーキングコースとして多くの人々が利用している。天野街道沿いには弘法大師(空海)にまつわる伝説が数多くある。その中のひとつに「黄金塚」がある。

榎塚台の街開きは昭和47年4月で、「まきづか」の地名はもともとあった通称で、榎の木が多かったことと、陶器山七不思議の一つ「黄金塚(こがねづか)」にちなんで付けられた。

榎塚台小学校の「校章のいわれ」には「榎塚(1丁10番)の小高い丘の上に黄金が埋められており、夜になると光を放って、浜寺・石津の沖を行く船の道標となり黄金塚と言いつた。後にこの地に宝篋印塔が建てられ、経巻(きょうかん)とも呼ばれるようになりました」と紹介されている。この経巻を埋めたのが弘法大師で、お経の巻物から「巻(まき)塚」となったと言われている。



黄金塚と須恵器窯跡

泉北は丘陵地帯で、竹城台にある小谷城は千早城の南朝方から浜の寺(浜寺、高石にあった浄土宗大雄寺)に連絡をするための「狼煙火」の中継地として重要な役割を果たしていた。

《My 堺観光スポット series2》

R4(2022)年2月号(通算297号)掲載

神功皇后が皇子の病を治した井戸

髪蒼水神(かみくさすいじん)

【和田 千香】

神功皇后が皇子の瘡(かさ)を癒そうとした井戸があると聞き、探してみようと思った。その場所の名前は、髪蒼水神(かみくさすいじん)。地図を見ると百舌鳥八幡宮とニサンザイ古墳の間くらいの位置。実際に行ってみると、車が一台ギリギリ通れるかどうかの細い道が入り組んだ村の中。どんどん進むと、まるで異次元の世界に迷い込んだかのような雰囲気。そして「髪蒼水神参道」の小さな看板が見えてきた。階段を下りていくと、あった!

小さなお堂の前に井戸、そしてその横に道祖神の石碑と消えかかった文字が書かれた石の道標。説明書きには神功皇后御自から神明を念じ、この百舌鳥荘の百済の地に御弓を立てると清水こんこんとして湧きいでたと伝えられる。清水を汲みとって浴されたところ、皇子様の瘡は平癒なされたとのこと。しかもこの清水は、少量ながらもラジウム含有の葉水であった。幕末から明治の中期頃には、この清水の近くに風呂屋が出来て、この清水を沸かし大変繁昌したらしい。



古代から現代まで、ここを通る旅人はこの井戸の水で喉を潤し英気を養い、また元気に歩き出したのだろう。今でも、清水の効果には変わりなく、瘡神様と呼ばれ汲んでも尽きない清水は自然の姿で伝えられている。

ここに井戸
があります

《My 堺観光スポット series3》

R4(2022)年3月号(通算298号)掲載

必見！美原区の名刹「大寶山 法雲禅寺」

【武藤 篤子】

昨年、ご縁でガイドをさせていただいた。会員の皆さんにご紹介できる機会をいただけたことに感謝。法雲禅寺は、堺市内では数少ない黄檗宗寺院。約1万坪を有する。寛文12年(1672年)黄檗宗の名僧「慧極道明(えごくどうみょう)」が開山。しかし寺としての歴史は古く、弘法大師開基の大寺院「神福山長安寺」があった。が、西除川氾濫で流失。変遷を重ねた後、曹洞宗僧の霊夢により掘り出された青色の小さな観音像を安置。法雲禅寺誕生に繋がっていく。今も「秘仏掘出し観音」として大切にされて



いる美しい仏像だ。江戸時代は北条早雲の子孫、代々の狭山藩主北条家より庇護を受けた。境内には黄檗宗独特の伽藍が配置され、中でも大雄寶殿の3,333体の小さな仏像を配した釈迦如来・薬師如来・阿弥陀如来三尊像は圧巻。他に山門や天王殿等、全国的にも極めて数少ない大変重要な黄檗建築がここにある。現在は皆さんが楽しく集えるお寺さんとして活動発信されている。4月末には満開の1000株のツツジが迎えてくれる。慈愛に満ちた10m大観音様と共に。また、本堂公開や各種催し物も計画されている。

《My 堺観光スポット series4》

R4(2022)年4月号(通算299号)掲載

「日置荘」地域と「萩原天神」

【辻 定子】

「日置荘」地域には、約1700年前から人々が住み始めたと言われています。海岸線や大きな川からも遠く、縄文時代や弥生時代の人々が住むには、あまり適していなかったことでしょう。農耕技術や鍛冶技術が改良され、人々は桃源郷を求めて「原寺町」辺りに村をつくり、稲作をして暮らし始めたようです。農業をするには池を造り「日の神」をお祀りしました。神様を祀る仕事を受け持つ人々は「日置部」と言われました。萩原神社は、北緯34度32分の「黄金の太陽ベルト地帯」に位置しています。僧行基さんはここに神社の神宮寺として「萩原寺」を建てました。日置氏も僧行基さんに帰依し、代々信仰されてきたようです。西町の地域会館前に日置家の19代により建てられた大きな「常夜燈」が残っています。



西町地域会館前の常夜灯

1200年位前(平安時代)、奈良の興福寺によって、丈六・高松・田中・原寺から北村・西村・狭山・黒山の方まで新田開発され「日置荘」と名付けられました。日置氏は、大和出身で「奈良興福寺」の荘園を治めました。明治時代になり神仏分離令により萩原神社と六つの寺に分かれ、近隣の村々に移りました。「萩原寺」の6つの内2つ「真光寺」と「妙覚寺」が原寺村にあり、昔の中心地であったことが偲ばれます。現在、「日置荘地域」は日置荘原寺町・日置荘西町・日置荘北町・日置荘田中町の4つで、昔の8か所の「日置荘」地域とは範囲が狭くなっています。「八下町」の昔話には8か所参りとしておかしの地域が受けつがれています。

《My 堺観光スポット series5》

R4(2022)年5月号(通算300号)掲載

堺市内にある万葉歌碑 (私の大好きな万葉集)

【中西 美恵子】

万葉集は最古の歌集であり、全20巻4516首ある。堺市内には万葉歌碑の建立されている所が6ヶ所あり、その内の4カ所を紹介。

仁徳天皇陵西側にある仁徳天皇の皇后、磐姫が詠んだ歌「在りつつも君をばまたむ うち靡く 我が黒髪に霜の置くまでに」巻2-87 一途に天皇を思い情熱的な歌を詠んだ皇后、しかし最期ちょっと淋しい結末。H7年5月に建立された除幕式で国文学者の犬養孝さんは「天皇様、皇后様がおそばに来られてよかったですね」とお話しされたそうだ。その後、H19年6月色紙状の歌碑4基が追碑され5基となった。一連



仁徳陵側の磐姫の歌碑

の磐姫皇后の歌は万葉集巻2相聞歌の巻頭に載っている。万葉集を学んでいるお客様を案内した時、皆さんといっしょに朗読した。方違神社門前に三国の地名を詠みこんだ天明3年3月建立のとても古い歌碑がある「三国山 木末に住まふむさきびの 鳥待つごと 我待ち瘦せむ」巻7-1367 大浜公園蘇鉄山の頂上にはH23年6月建立の歌碑。「旅人の宿りせむ野に霜降らば あが子はぐくめ天の鶴群」巻9-1791 遣唐使となり異国へ向かう我が子を思う母の歌。そして浜寺公園内にはH20年4月「大伴の高師の浜の松が根を 枕き寝れど家し惚はゆ」巻1-66 昔から白砂青松の高師の浜と歌われた地に他所より移設された。この4カ所はガイドの時にご案内しているが、他の2カ所は個人の地にある。

万葉集は難解で敬遠していたが同期入会のSさんから万葉集の面白さを教わりすっかりはまってしまった。これからも万葉歌の歌われた地万葉故地を訪ねたいと思う。(萬葉二千三百碑 万葉の大和路を歩く会)

《My 堺観光スポット series6》

R4(2022)年6月号(通算301号)掲載

川のない橋

【西川 史朗】

住井すゑの小説「橋のない川」は長山藍子・大谷直子の主演で二度も映画化された名作で有名ですが、今回のMy 堺観光スポットは「川のない橋」。JR津久野駅近くに万年橋というちょっと変わった橋があります。昔から暴れ川にかけた橋が洪水等の災害で流されやすく、架け替えに多くのお金と労力がかかったので、いつまでも橋が長持ちするようにとの願いを込めて全国各地で万年橋という橋名が採用されていて、この橋もその例に洩れないようです。

現在の万年橋
(昔はこの橋の下が石津川だった)

旧石津川は大きく蛇行が続き、何度も何度も氾濫を繰り返す暴れ川で、どんな橋を架けても流されていました。そこで昭和7年に周辺住民の願いでその当時では全国でも珍しい鉄筋コンクリート製のアーチ橋が架けられて二度と流されることのないようにと「万年橋」という名前が付けられたとか。

時は移り昭和30年代、津久野駅周辺の区画整理事業で石津川の大改修が進み蛇行していた川筋が変更され万年橋が架かっていた部分は川ではなくなりましたが、この暴れ川の歴史と周辺住民の苦労を将来にわたって忘れないようにと、あえて橋は残したそうです。

この橋のある津久野から毛穴にかけては昔から木綿の和晒や晒した木綿の染色業が盛んで、万年橋横の角野晒染(株)さんには絞り染め体験が出来る工房があります。また、橋の前には元禄二年創業の糀屋、雨風さんのお店と隣ではおしゃれなレストランも営業されています。橋だけでなく近くには見どころ・食べ処もある万年橋、一度探訪してみたいですか。

《My 堺観光スポット series7》

R4(2022)年7月号(通算302号)掲載

美造 Re パーク (ビックリパーク)

【森口 照男】

場所は、堺市南区三原台2丁バス停から北西徒歩約5分の田園大橋東詰めにあります。公園という名称ですが、堺市の公園協会に入っていない、堺市土木部が管理しております。生い立ちは「花いっぱい堺」のボランティアの方と、近くの障がい者施設の職員と生徒達が約15年前に整備を始めました。公園では春は桜、花水木が咲いてとても綺麗です。また、ジャーマンアイリスやアヤメも沢山咲き色とりどりで目を楽しませてくれます。4月半ばすぎると真白なカラーが咲き、カラーが終わる頃には紫陽花、そしてヒメジオンの群生、ドクダミの白い小花の群生、他ミントやセリなども生えています。



秋になると、キバナコスモスの群生、イチョウの黄葉、酔芙蓉、萩も楽しむことができます。そして感心するのが「花いっぱい堺」のボランティアの方が4月から12月まで植栽しているビオラ、ゴテチャ、千日紅、サルビア等の園芸種も楽しみです。北を臨むと春の田起こしから田植え、青田、たわわに実る稲穂と、花を見ながらお米の育つ様子を見ることができます。

コロナ禍で遠くに行けないシニアのグループや若いご夫婦がお子さんと散策しているお姿をよく拝見します。木が生い茂り、野鳥の鳴き声を聴き、足元も舗装されていないので、温暖化には無関係の場所です。どんどん緑が少なくなっている泉北ニュータウンで貴重な散歩道です。

《My 堺観光スポット series8》

R4(2022)年8月号(通算303号)掲載

首切地蔵尊

【箕野 幸子】

昔の堺は河内、大和、和泉から物資が集まり、商業の中心地でした。竹ノ内街道、紀州街道、熊野街道等は堺の町から各方面に生活に必要な品を売りにいく行商が盛んでした。

昔、木綿の布を大和河内へ売りにいく、木綿屋と呼ばれた信心深い行商人がいました。行商の帰りには毎日、はしゃがり(今の中田出井町)のお地蔵さんを拝んでいました。ある日、帰りが遅くなりいつものようにお地蔵さんを拝んでいると、追い剥ぎに襲われました。木綿屋さんは命からがら逃げて帰りました。翌朝来てみるとお地蔵さんの首が斬られて道端に転がっていました。信心深い人であったのでお地蔵さんが身代わりになってくれたようで、それ以来、首切地蔵尊と呼ばれるようになりました。

その後、当時の堺の庄屋さんは自分の土地にお堂を建立し、「はしゃがり」にあったお地蔵さんを南向陽町に移してお祀りしたのが首切地蔵尊であると言われている「身代わり地蔵尊」です。これは江戸時代初めの話ですが、庄屋さんの子孫が明治に立て直しました。

それ以来数々の台風、地震に耐え、第二次大戦の戦火も免れましたが、平成7年の阪神淡路大震災以降に老朽化し、現在の場所でお堂を縮小して新築され祀られています。



《My 堺観光スポット series9》

R4(2022)年9月号(通算304号)掲載

真龍山菩提院 万代寺 (しんりゅうざん ぼだいいん まんだいじ)

【友野 恵子】

百舌鳥八幡宮北側に隣接する真言宗犬鳴派の万代寺は、普段はひっそりと落ちついた雰囲気の内院ですが、節分の日には厄年の人が奉納した餅・小豆・砂糖で炊いたぜんざいが振る舞われ、多くの参拝者で賑わいます。

寺伝によれば奈良時代729年(天平元年)に高僧行基による開基。南北朝時代には七堂伽藍を有する泉州屈指の大寺院で、足利尊氏の勅願寺でもありました。しかし羽柴秀吉の紀州征伐で織田方の拠点となり、1584年(天正12年)根来・雑賀一揆で焼失しました。その後、江戸時代1624年

(寛永元年)堯俊によって中興されました。明治の神仏分離までは、百舌鳥八幡宮の神宮寺の一つで、奥の院といわれ同じ境内にありました。本堂のご本尊は無量寿如来(阿弥陀如来)、その右には南海沿線七福神巡りで紹介されている除災招福の神、毘沙門天をお祀りするお堂があります。また左のお堂には「百舌鳥の荒神さん」と親しまれている三宝荒神を祀っています。

南門(百舌鳥八幡宮本殿の裏手方向)には「もず三宝大荒神尊 もず寺」と刻まれた石標があり、「もず」はかつてこの地が「万代、毛受」などとも書かれてきたことから寺号にも由来するようです。

(所在地：大阪府堺市北区百舌鳥赤畑町5-705)



《My 堺観光スポット series10》

R4(2022)年10月号(通算305号)掲載

金宝山光明院中仙寺「牛頭天王坐像」について

【米里文良】



牛頭天王坐像

堺市東区石原町の金宝山光明院中仙寺に「牛頭天王坐像」が祀られています。疫神を退散させ、疫病を防ぐことを祈願する牛頭天王にたいする信仰は、京都の祇園社(八坂神社)、播磨の広峯社(広峯神社)、尾張の津島天王社(津島神社)から日本中に広まっていったと伝えられています。

中仙寺境内の説明板を見ると、「金宝山中仙寺は融通念仏宗の寺院で、現在当寺に安置されている牛頭天王坐像は、もと境内の南に接する八坂神社に祀られていたもので、明治の神仏分離の際に移されました。牛頭天王はインドの舎衛城の祇園精舎の守護神であり、日本においてはスサノオノ命に習合され、京都祇園の八坂神社などにまつられて病気や災いを除く神として信仰されています。その姿は一定していませんが、牛頭を頭上に戴くことは共通しています。・・・中略・・・平安時代後期12世紀の制作と考えられ、大阪府の有形文化財に指定

されています」

日本の神でも仏教の仏でもない境界的な性格が、神仏分離の際、その矢面に立たされることになってしまいます。明治の神仏分離令により、神社における仏教的要素の排除がめざされたことからして、中仙寺のように隣接する八坂神社から「牛頭天王坐像」が移されたことは非常に珍しいことであると思います。

参考文献 畑中章宏 『廃仏毀釈』 ちくま新書

《My 堺観光スポット series11》

R4(2022)年11月号(通算306号)掲載

甲斐町公園 — 住民参加モデル第1号公園 —

【向 和夫】

その公園は与謝野晶子生家跡から50メートルほど西にあります。小公園の住民参加によるリニューアルで具現化した第1号が甲斐町公園です。行政と市小学校区住民の協議によってリニューアルした公園です。

利用状況を見てみましょう。グラウンドでは、高齢者がゲートボールに興じます。幼稚園児が保育が終わったら集まってくる公園です。出迎えた保護者も交流する場になっています。散歩者がちょっと一休みで利用します。健康遊具を利用した筋トレ、樟の大木の下にあるサークルベンチ、ソメイヨシノの根元を囲むレンガブロック積、藤棚の下のベンチで、...

障がい者に優しいトイレもあります。甲斐町公園愛護会のメンバーがボランティアで掃除をし、公園周囲の園芸は、堺市都市緑化センターからの協力で「花の会」の会員が担当します。コンテストで賞を競っています。まさに砂漠の中のオアシス的存在です。開口神社の八朔祭りで、ふとん太鼓がここから出発し宮入りします。保存会のメンバーは堺市まち美化促進プログラムに参加しており、公園周辺の道路清掃をしています。北隣の堺環濠都市遺跡=SKT47から織部様式の茶のうつわが出土しています。この公園の地下に利休遺愛の茶器が埋もれているかもしれません。歴史的ロマンを感じさせる甲斐町公園であります。



《My 堺観光スポット series12》

R5(2023)年1月号(通算308号)掲載

大仙公園に咲く奇跡の桜「チシマザクラ」

【櫻 太郎】

チシマザクラ(千島桜)は千島列島から根室にかけて群生している桜です。北海道で咲く時期は5月中旬、日本で一番遅く咲く桜といわれています。小ぶりの小さな可愛い花を咲かせます。その桜が大仙公園に育っています。寒い地方の桜なので本州では育たないといわれていました。そしていろいろな植物園や公園がチャレンジしましたが、ことごとく失敗したそうです。

その桜を見事に育て上げたのが大仙公園です。暑さを凌げる環境をつくり、温度を上げないように、根は腐らないように工夫に工夫を重ねて成功しました。北海道では5月中旬に開花しますが、ここ堺では3月末から4月初旬に花が見えます。関西では唯一であろうチシマザクラ、博物館の裏の礫山園で静かに春の来る日を待っています。



《My 堺観光スポット series13》

長曾根（黒土）陣屋跡

R5(2023)年2月号(通算309号)掲載

【細谷 利晶】

今回ご紹介します My 観光スポットは北区黒土町にあります長曾根（黒土）陣屋跡です。

長曾根陣屋は江戸時代の譜代大名で関東を地盤とした秋元氏が、飛地である河内43カ村2万7千石を統治するために寛延3年（1750年）に設置しました。陣屋とは今で言うと役所と裁判所と官舎を併せた機関です。南北約60間（108m）東西約86間（155m）の敷地を有していました。近隣の狭山藩が支配石1万1千石、伯太藩が1万3千5百石、伏尾陣屋が4千8百石ですので長曾根陣屋の支配範囲の大きさがわかると思います。

明治維新で陣屋は廃止され住宅等へ変わって行きましたが、現在でも陣屋の南東にあった雷電宮（雨乞い祈禱所）辺りに楠の巨木と鳥居、祠、溝石垣が残り、陣屋区域も街路で巡る事が出来ます。また、西隣にある長曾根・黒土共同墓地には秋元家の家臣、比企家の墓石が今も残っています。

竹内街道から1本北の脇道の此処の場所に佇むと江戸時代にタイムスリップした雰囲気になります。是非ともお越し下さい。



《My 堺観光スポット series14》

踞尾八幡神社

R5(2023)年3月号(通算310号)掲載

【谷崎 悦子】

「踞尾八幡神社」をご案内します。踞尾・・・「つくお」と読みます。JR 阪和線津久野の駅名は「つくの」ですが、駅名を決める時、読みやすいように「津久野」の字をあてたものです。

津久野駅を西側に出て、ロータリーを左方向に進みます。そして道路の向こうに白い弓形の欄干の橋「万年橋」があります。その橋を渡って右方向の坂になっている細い道を登りきったところで西に向かって100m位下がると、右手に「踞尾八幡神社」が見えてきます。急な階段を20数段登り切った所に石の鳥居。正面には八幡大神を祀った社殿が静謐のなか佇んでいます。境内には樹齢850年の御神木「大楠」や、源義経が八嶋に渡る前、暴風雨に逢いここに避難し、その際腰を降ろしたと伝わる「義経腰かけ石」があります。また、馬鞍を奉納し武運を祈願。

「踞尾」という八幡神社の名の由来は、神功皇后が三韓から帰国し、船で茅渟の海（大阪湾）に着き石津川を遡ってこの地に下船。小高い山からしばし「つくまわれて」茅渟の海を見渡しました。「踞ふ（つくばう）」・・・しゃがんだか、膝を立てて座ったのか、両手をついたのでしょうか。

八幡（神功皇后）が「つくまわられた」ので地名が「踞尾 つくの」となり、その旧跡が踞尾八幡宮とされた。明治になって、「踞尾八幡神社」と呼ばれるようになったといわれます。



《My 堺観光スポット series15》

R5(2023)年4月号(通算311号)掲載

南区の光明池

【渡辺 和彦】

紹介させていただくのは、愛犬を連れてのジョギングコースでもある「光明池」です。

光明池は堺市南区和泉市の境界にまたがって存在するため池で、昭和6年から昭和11年にかけて大阪府の事業として築造されました。農業用のため池では大阪府下最大の貯水量(3,696,000ト)を誇ります。また、池の名称はこの地に伝わる光明皇后生誕伝説に基づいて名づけら



3月8日のラクウショウ並木

れました。

さて光明池は、5世紀から8世紀にかけて須恵器を焼いた陶器窯跡群の中にあり、光明池の周辺には30カ所程度の窯跡が眠っています。大阪みどりの百選、大阪ミュージアムにも選定されている、風光明媚なところです。これからの時期は「桜」、秋は「もみじ」と「ラクウショウ並木」の紅葉が見どころです。

おすすめは12月から1月にかけてのラクウショウの「落ち葉の小道」300mにわたる赤茶色の落ち葉の絨毯は絶景です。ぜひ一度訪ねてみてください。

～ あとがき ～

協会員の皆様へ

この度は広報部発行の「別冊 協会ニュース」をお読みいただき、誠にありがとうございます。また、投稿していただいた協会員の皆様には素晴らしい記事をご提供いただき、大変感謝しております。皆様のご協力により、当会報はより充実したものとなりました。

記事の依頼を受けていただき、内容の詰め段階からとても真剣に取り組んでくださいました。「地元の大好きな場所を紹介したい」「常々、気になっている偉人をきちんと調べ直してお知らせしたい」とおっしゃってくださった方もおられました。

また、わざわざご自分で写真を撮りに行ってくださった方、自分では調べきれなかったので地元の詳しい方に聞きに行ってくださった方、パソコンが苦手なので息子さんに頼んで書いたものを送ってくださった方もおられました。

それぞれの記事、一つひとつに執筆者の方の深い思いを感じることができました。

編集作業においても、多大なるご支援とご協力を賜りまして、心より感謝申し上げます。今後とも皆様のご支援をいただきながら、より良い会報をお届けするよう努めてまいります。

「知って得する堺の偉人」と「My 堺観光スポット」は、今回で終了となりますが、皆様の熱い思いは何らかの違う形に変えて、引き継いでいきたいと考えております。その時は今まで執筆してくださった方も、また執筆されておられない方も、ぜひご参加のほどよろしくお願いたします。改めて、心より感謝を申し上げます。



2023年10月吉日 広報部一同